

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：32644

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07210

研究課題名(和文) 共生の観点からみる在韓日本人の宗教的コミュニティに関する調査研究

研究課題名(英文) Study on religious community of Japanese Residents in Korea from the Viewpoint of Multiculturalism

研究代表者

李 賢京 (LEE, Hyunkyung)

東海大学・文学部・講師

研究者番号：80584333

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで在韓日本人コミュニティ研究において注目されてこなかった宗教的コミュニティを対象に、どのような特性を持つ人々が集まり、彼らが韓国人・韓国社会とどのように関わっているのかを明らかにすることで、在韓日本人コミュニティ研究に更なる視点を提供することを目的とした。結果、既存の在韓日本人コミュニティの形成には韓国社会と歴史・社会・政治的経緯が大きく影響していたが、90年代以降、在留資格および居住地の多様化と共に、とりわけキリスト教を基盤とするコミュニティは、韓国人信者や地域住民とも積極的に交流するなど、従来とは異なった開かれたコミュニティとして位置づけられることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study is subjected to religious community that has not been noticed so far when it comes to researching Japanese residents in Korea. And this study is aimed to clarify what characteristics religious community members of Japanese Residents have and how they form a relationship with Korean and Korean society. In the existing communities, the historical, social and political relationships between them have great impacts on the formation of a community and solidarity among the members. Furthermore, as the number of people who live, frequently coming and going from and to Korea and Japan, open communities began to be formed. Of these open communities, there is a community based on a religion. Today, of several religions, Christian church reflects especially, the above characteristic best. It is different from existing communities, and there is no strong solidarity among the members. And yet, it has characteristics as a loose but connected open community.

研究分野：宗教社会学

キーワード：共生 在韓日本人 在外日本人コミュニティ 宗教的コミュニティ 日韓

### 1. 研究開始当初の背景

1910年より朝鮮半島では日本の植民地支配が始まり、各界各層の多くの日本人が朝鮮に移住するようになった。このような歴史的背景により、植民地朝鮮における日本人と朝鮮人の間には、支配者と被支配者という構図が生まれ、朝鮮人社会とは厳格に断絶された在朝日本人社会が形成されるようになった(バン 2010)。しかし、敗戦後、GHQ 指令により在朝日本人は、朝鮮半島から強制退去を命じられ、在朝日本人社会は朝鮮半島でその姿を消した。その後、1965年に日韓基本条約が締結され日韓の国交が回復するとともに、韓国に在留する日本人(以下、在韓日本人)は徐々に増えていった。その結果、ソウル市東部二村洞には通称「日本人村(Japan Town)」がつくられ、日本大使館や日系企業の駐在員などを中心メンバーとする「SJC(Seoul Japan Clubの略称)」をはじめ、韓国各地には様々な日本人コミュニティが形成されていった。

これと同時に、日韓両国において在韓日本人を対象とした調査研究が行われ、国交正常化以降の在韓日本人団体の特徴について経済的側面から解明した研究(木村 2008)、ソウルの日本人村の形成過程について解明した研究(イム他 2012)、SJCを対象に設立経緯やメンバーの特徴について明らかにした研究(ハン 2009)などがある。以上の研究成果は、在韓日本人コミュニティの特徴を、日韓の歴史や韓国の政治・経済・社会的変動と関連付けて考察しようとした秀作といえる。だが、いずれも植民地経験に起因する歴史認識に対して沈黙の立場を保持し(木村、前掲書)、現地社会とは断絶された日本人だけが集うものに集中している。言い換えれば、韓国人・韓国社会と積極的に関わり、トランスナショナルなネットワークを形成しつつあるコミュニティに注目した研究はない。

ところが、1990年代半ば以降、日本の諸宗教教団による戦争責任表明が相次いで発表されることを境に、韓国人・韓国社会との交わりを重視し、積極的に韓国社会との共生を模索するなど、従来とは異なる性格を持つ在韓日本人の宗教的コミュニティが登場した。これら宗教的コミュニティは、ソウル、大田、釜山などを中心に、該当宗教を基盤としながら活動している。

これらコミュニティは、韓国人信者や地域の住民とも積極的に交流するなど、従来の在韓日本人コミュニティとは異なった「開かれた」コミュニティである。この点は、これまで他在韓日本人コミュニティが回避してきた「歴史認識」における変容・再構築を通して、当該宗教の教えを韓国人と共有するという姿勢のもとに成立している行為として理解でき、日韓関係を理解する際に相互の歩み寄りのきっかけとなっているようである。今後もこれら韓日本人の宗教的コミュニティは、韓国社会との共生の姿勢を保持しながら、韓国社会との協働関係を構築していくと

考えられる。地理的、歴史的に敏感な部分が多数存在する日韓関係を解決するためには、草の根的な相互理解が重要となる。その意味で、宗教を通して韓国社会と共生を目指す韓日本人の宗教的コミュニティに注目することは、相互理解に基づいた今後の友好協力的な日韓関係の実現にもつながると考える。

### 2. 研究の目的

移民者が移民先で信仰生活を継続するのは、宗教が彼らにアイデンティティや共同体への帰属意識を付与し、宗教施設それ自体が移民者同士のコミュニティ・センターとして機能するからである。そのため、移民は新しい環境に適応するための多様な手段の中でも、とりわけ宗教を積極的に利用する傾向がある。これは在外日本人も同様である。

それらの宗教的コミュニティは必ずしも当該外国籍の住民による閉ざされたものばかりではなく、現地人と積極的に関わりながら現地社会に向けて活動しているものもある。こういった宗教的コミュニティの研究は、ムスリムコミュニティに多く見られ、韓国社会においてこの点に着目した研究はみられなかった。

本研究の目的は、これまで在韓日本人コミュニティ研究においてあまり注目されてこなかった宗教的コミュニティを対象に、どのような特性を持つ人々が集まり、彼らが韓国人・韓国社会とどのように関わっているのかを明らかにすることで、在韓日本人コミュニティ研究に更なる視点を提供し統合的な理解を行うことである。そのための作業として、以下の3つを実施する。

(1) 在韓日本人の宗教的コミュニティの形成史や実態を把握する。

(2) どのような特性を持つ人々が集中しているのかを分析し、在韓日本人の移住史や日韓の歴史・政治・社会的背景との関わりから考察する。

(3) 既存の在韓日本人コミュニティとの比較・対比を通して、宗教的コミュニティの在韓日本人社会における位置づけを明らかにする。

これら作業から得られた知見をもとに、在韓日本人コミュニティ研究に向けての統合的な研究視点を提供することが、本研究の最終的な到着地点である。

### 3. 研究の方法

本研究は、韓国社会との共生関係を構築しようとする在韓日本人の宗教的コミュニティを対象に、日韓両国側の立場から、宗教的コミュニティの位置づけを捉える実態調査(参与観察、メンバーへの聞き取り調査)と、社会的背景(在韓日本人の移住史・日韓の歴史)への検討といった両面から取り組んだ。その際、既存の日本人コミュニティと比較検討を行い、在韓日本人コミュニティ研究への更なる知見の提供だけでなく、現代

在外日本人コミュニティの現状についての統合的な視点提供に努めた。

具体的には、平成28年度(1年目)は、在韓日本人コミュニティの動向把握(韓国における日本人団体の一覧作成、先行研究と関連資料(新聞記事やブログ等)の収集、ソウルや釜山など、在韓日本人が多く居住する地域を中心に宗教を基盤とするコミュニティの歴史や現状などについて関連資料の収集を実施)、調査対象団体の選定・情報の収集(調査可能な日本人団体の選出および調査依頼、承諾を得た団体の代表者および関係者等に当団体の歴史や代表者(関係者)の特性、メンバーの属性等について聞き取り調査を実施、宗教的コミュニティに対しても、同様に聞き取り調査を実施)、調査票の作成および参与観察の実施(調査票の作成、継続的に参与観察を実施)、メンバー・信者への聞き取り調査の実施(半構造化した調査票を用いた聞き取り調査の実施、当団体への入会経路・背景把握、韓国への移住動機や移住後の経験、韓国人・韓国社会との関係性、日本での出身、学歴、家族などの分析視点を視野に入れて事例を積み重ね、各団体と宗教的コミュニティの特色を析出)した。

平成29年度(2年目)は、収集データの整理・分析(調査対象団体および宗教的コミュニティの実態と、構成員の特性を日韓の歴史・社会変動などと照らし合わせながら分析、在韓日本人コミュニティの現状を統合的に考察)、学会への参加、調査内容の検討(学会や研究会で報告、参加者からのコメントを随時集約、調査結果の検討)、追加調査によるデータの補完作業の実施(不足・不明確な点に関して追加調査の実施、データの補完作業、データ整理および分析を実施)、統括(全体の成果を統括、報告書の作成・学術論文誌等に投稿)を行った。

#### 4. 研究成果

1990年代以降、従来とは異なる立場で現地に生活する日本人の増加(現地採用就労、起業、国際結婚など)とともに、アジア地域における日本人社会の変化がもたされた。その結果、日本人会や日本人学校の会員数が減少し、現地の日本人コミュニティの変化が生じ、既存のコミュニティとは違った形の新たな組織が誕生するようになった(金戸2012)。

以上のような状況は、韓国においても同様にみられるようになった。1970年代以降、ソウル市龍山区東部二村洞を中心につくられたいわゆる「リトル東京」は、大手日本企業の駐在員と家族、大使館の職員と家族など、当時、約1,000世帯以上が集住し、彼らを中心にコミュニティを形成されていた。「SJC(SEOUL JAPAN CLUB)」(1966年に「ソウル日本人会」が発足、1997年以降、ソウル日本人会・ソウル日本商工会・JV会が結束して誕生)がそれである。SJCは、韓国内の日本人同士の情報交換や交流親睦のために設立され、ど

ちらかといえば、長期居住よりは3-5年後には日本に帰国する短期居住者が多く、入会の資格や交流の内容などにおいて、日本人だけが集う閉鎖的な交流を保持する傾向があった。また、日韓の歴史的関連性(植民地支配/被支配)においても消極的な立場が主流であったといえる。

ところが、2000年代にわたり、「新リトル東京」がソウル市麻浦区上岩洞に誕生し、在留資格の多様化や居住地選択の多様化が目立つと同時に、在韓日本人コミュニティにおいても変化がみられるようになった。この中に、宗教を介したコミュニティとして、「ソウル日本人教会」と「ソウル日本語ミサグループ」が挙げられる。

両コミュニティの日本人メンバーの多くは(それぞれ韓国人メンバーも多数存在する)、日韓を往来しながら生活を維持(日韓両国に居住地をもち、年中往来)しながら、日韓それぞれの教会のミサに参加するといった信仰生活における柔軟性および同時性を有していることが明らかになった。また、キリスト教と日本語を基盤としながらも、日本人メンバーに限定せず、誰でも気軽に参加可能であり、ときには日韓の宗教・非宗教関連行事を教会で開催するなど、コミュニティおよび教会を「開かれた」場所として活用していた。

以上の点は、これまで外国人の宗教施設が中心となって行われる地域社会との共生に注目した研究が不足している中(井澤・上山2017)、本研究では在韓日本人の宗教的コミュニティへの実証的な調査を通して、多文化共生における宗教および宗教施設の役割について、信仰にとらわれずに地域住民と接点を生む場となり得る可能性があることが明らかになった。今後、多文化共生の推進やコミュニティ形成を行う場づくりとして、宗教を介した外国人コミュニティおよび宗教施設の機能をも視野に入れ、多文化共生政策の推進にその活用性を検討する必要があると考える。

ただし、日韓の間には植民地支配・被支配といった歴史認識における問題が存在しており、歴史に対する認識においては両コミュニティの間で差異がみられた。「ソウル日本人教会」は植民地期の「負の遺産」を払拭する活動(たとえば、歴史現場研修ツアーなど)を積極的に行い、謝罪と歴史的反省の重要性を強調する一方、「ソウル日本語ミサグループ」は日韓の歴史、社会、政治などには意味や関心をあまり示さない。「ソウル日本人教会」の場合、当初、残留日本人妻たちのために設立された経緯から、関連する活動に力を入れるようになっている。コミュニティ発足当時の日本人メンバー構成の特徴が、以降のコミュニティの活動性格においても影響を与えていることがわかった。

以上をふまえ、「SJC」など、既存の日本人コミュニティと比較してみると、ソウル日本

語ミサグループやソウル日本人教会などといった在韓日本人の宗教的コミュニティは、国交正常化以降発足した在韓日本人コミュニティとは異なった「開かれたコミュニティ」であることがうかがえる。また、既存の在韓日本人コミュニティが、反日感情、韓国文化への異質感などから韓国社会と断絶し、日本人だけが集うコミュニティであることに對し、宗教を介した日本人コミュニティの場合、韓国社会との共生の姿勢を有し、韓国人メンバーおよび地域社会との交流を重要視している。この点は、宗教の教えを共有する姿勢のもとに成立していると理解でき、今後、日韓関係を理解する際に相互の歩み寄りのきっかけ、さらには韓国社会との協働関係を構築していく基盤になると考えられる。

以上、本研究を通して得られたデータは、既存のSJCなどといった在韓日本人コミュニティだけではなく、在日韓国人の宗教コミュニティの一つである東京韓人教会との比較・検討も行い、国際学術大会にて発表するなど、研究成果の国際的発信にも努めた。今後、全体の成果を統括し、学術論文誌等に投稿する予定である。

本研究は、在韓日本人の宗教的コミュニティと既存の日本人コミュニティとの比較検討を通して、現代在韓日本人コミュニティの現状についての統合的な視点を提供することを目指した。「日本人教会」や「カトリックミサグループ」などといった宗教的コミュニティに対する調査は当初の計画通り進んだが、近年の日韓関係の悪化により、日本人会をはじめとする宗教を基盤としない日本人団体への調査依頼を行ったものの、承諾を得ることができず、結果的に既存研究との比較検討に留まってしまった。在韓日本人コミュニティの現状についての統合的な視点を十分に提供できなかったことが大きな反省点である。しかし、従来在韓日本人コミュニティとは異なった「開かれた」コミュニティとしての性格を有する在韓日本人の宗教的コミュニティとへの接続の可能性が開かれたこと、外国人の宗教施設が中心となっていく地域社会との共生の可能性を確認できたことなど、一定の成果として付言しておきたい。今後、後続の研究に本研究の成果が活用され、更なる研究成果を積み重ねていくことを期待する。

#### <引用文献> (引用順)

バン・グァンソク 2010「韓国併合前後のソウルにおける在韓日本人社会と植民権力」『歴史と談論』56

木村健二 2008「日韓条約以降の経済関係と在韓日本人団体」小林英夫他『戦後アジアにおける日本人団体』ゆまに書房

イム・ヨンオン他 2012「在韓日本人の集居地共同体の形成とディアスポラの文化の特徴についての考察」『東北亜研究』27-2

ハン・ミョンジン 2009『移住民共同体とし

ての在韓日本人共同体の特徴分析』国民大学大学院修士学位論文

金戸幸子 2012「東アジアにおける日本人コミュニティのダイナミズムと変容：香港の事例を中心として」『藤女子大学紀要第1部』49、67-99

井澤和貴・上山肇 2017「地域社会における在日外国人との持続可能な多文化共生に関する研究 東京都江戸川区西葛西を事例として」『地域イノベーション』9、109-118

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 3 件)

李賢京、近代日本キリスト教の朝鮮布教に関する一考察、東アジア宗教研究フォーラム第2回国際学術大会、関西大学、2018年2月25日

李賢京、「宗教」と「移動」 在韓日本人コミュニティを中心に、日本社会学会第90回学術大会、東京大学、2017年11月4日

LEE Hyunkyung, Religious Interchange between Japanese Residents in Korea and Korean Residents in Japan: Focused on the Catholic Church, The 34th ISSR(International Society for the Sociology of Religion) Conference, University of Lausanne (Swiss), 2017年7月4日

〔図書〕(計 1 件)

李賢京(櫻井義秀編) 法藏館、しあわせの宗教学 ウェルビーイング研究の視座から、2018年、345

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

李 賢京 (LEE, Hyunkyung)

東海大学・文学部・講師

研究者番号：80584333